

動物用医薬品  
体外診断用医薬品

# 猫用ワクチチェック

猫パルボウイルス（猫汎白血球減少症）

IgG抗体検出用検査キット



for Evidence-Based Vaccination  
エビデンスに基づいたワクチネーション

## ■ ワクチネーションガイドラインから抜粋

ワクチネーションガイドラインは、猫接種部位肉腫(FISS : Feline Injection Site Sarcomas)の問題から始まりました。

動物に優しく、エビデンスに基づいた獣医療の提供のため、WSAVA から犬と猫のワクチネーションガイドラインが発表され、2015 年には最新版が公開されました。

ガイドラインは、最新の科学的知見に基づき臨床獣医師がより安全に免疫学的に正しいワクチネーションができるように作成されています。

ワクチンをコア、ノンコア及び非推奨に分類し過剰接種の抑制を目指しています。

### WSAVAによる猫のワクチン分類

#### ● コアワクチン

猫汎白血球減少症ウイルス	FPV
猫カリシウイルス	FCV
猫ヘルペスウイルス 1型	FHV-1 (猫伝染性鼻気管炎)



#### ● ノンコアワクチン

猫白血病ウイルス	FeLV (リスクによってはコア)
猫免疫不全ウイルス	FIV
Chlamydia felis	FCh
Bordetella bronchiseptica	FBo

#### ● 非推奨ワクチン

猫伝染性腹膜炎	FIP
---------	-----

### ネココアワクチン

特性	ウイルス名	FPV	FHV-1	FCV
血中抗体IgGの存在と 感染防御能の相関性	○*1	重要性は低い *2	重要性は低い *2	

\*1 MLV(弱毒生) コアワクチンの接種に応答した猫は、再接種を行わなくても FPV に対して強固な免疫を何年にもわたり維持する (免疫記憶)。 WSAVA guideline 2015 Japanese 16p

\*2 FCV に対して最も重要な免疫タイプは粘膜免疫、FHV-1 では細胞免疫であるため、

FCV と FHV-1 では血清抗体価の重要性は低い。 WSAVA guideline 2015 Japanese 59p

### ワクチネーションプログラム

子猫：犬と同様に 6 ~ 8 週齢から始め 3 ~ 4 週毎に接種し、最終接種を 16 週齢以上とする。

成猫：高リスクな環境 → 毎年の接種

リスク判定

多頭飼い、頻繁なペットホテルの利用、室外に出る。

低リスクな環境

→ 3 年以上の間隔で接種

リスク判定

室内の一頭飼い、ペットホテルを利用しない。

### ワクチン接種部位

前肢肘関節、後肢膝関節より遠位、両側腹部の毎回異なった場所

# 猫用ワクチチェックは、 院内で判定できる検査キットです(23分)

猫用ワクチチェック：猫パルボウイルス（猫汎白血球減少症）IgG 抗体検出用検査キット  
※FHV-1・FCVについては左ページ参照

●製品名：猫用ワクチチェック

●対象動物：猫

●使用期限：製造後15か月

●貯蔵方法：2~8°C

●キット内容

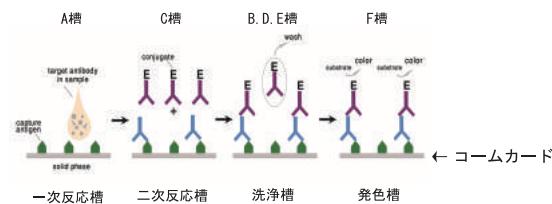
	12検体用
コームカード	1枚
反応用プレート	1個
ピンセット	1本
コームスケール	1枚
使用説明書	1部



## 測定原理

・キットは、抗原を添着したコームカード、二次抗体、洗浄槽、発色剤などを封入した反応用プレートで構成されています。

・DOT-BLOT ELISA法を用いた半定量検査



## 判定基準

カットオフ値は、世界のゴールドスタンダードを参考にしています。

FPV HI 抗体価 80 倍

## 性能試験成績(コーネル大学・フロリダ大学など)

	感度	特異度	一致度	n=444
FPV	90.4%	97.8%	95.7%	

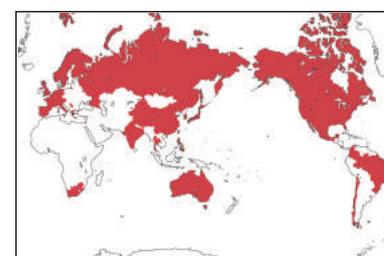
Cornell大学 HI試験抗体価との相関試験

## 特異性試験

FCV、FHV、FeLV、FIV、ネコクラミジアの抗体には反応しないことが証明されています。

## ワクチチェックの世界展開

米国・EUなど30か国以上で使用されています。



## 抗体検査の意義

子猫における FPV 防御能獲得の判定  
成猫における FPV 再接種の判断

## 使用方法

■検体量 血清、血漿……… 5  $\mu$ L EDTAまたはヘパリン処理全血……… 10  $\mu$ L



コームカード、反応用プレート及び被験血液を 20 ~ 25°Cに戻す。



付属のピンセットでA槽のアルミカバーを開け検体を入れる。数回ピッティングして混和する。



コームカードを検体の数だけ切り取る。



開封したA槽にコームカードを差し込み、5分間浸漬する。途中上下に数回小刻みに動かす。



B、C、D、E、F槽へと同様の手順でコームカードを移動させる。  
次の槽に移す際は余分な液をティッシュペーパーなどの上に静かに振り落とす。

<各槽における浸漬時間>  
A槽:5分 B槽:2分 C槽:5分  
D槽:2分 E槽:2分 F槽:5分  
E槽:2分(発色反応を停止するため)

## 判定方法

### ■コームカードのスポットの説明

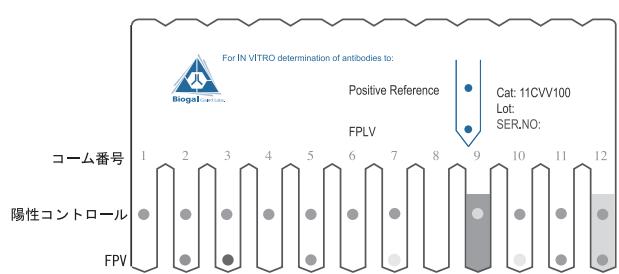
コームカードの「歯」部分には根本から順に陽性コントロール、FPVの抗原液が添着されていて、スポットの濃淡の濃さを陽性コントロールと比較し判定する。

### ■コームスケールの使い方

- ・陽性コントロールのスポット濃淡をコームスケールのC+3に合わせる。
- ・スポットのスコアを読み取る。
- ・スコア3以上：陽性
- ・スコア3未満：陰性



### 【結果判定例】



コーム番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
陽性コントロール	●	●	●	●	●	●	●	●	-	-	3	3
FPV	●	●	●	●	●	●	●	●	-	-	2	≥3

## 【製造販売元】



スペクトラム ラボ ジャパン株式会社  
東京都目黒区緑が丘1-5-22  
<http://vaccicheck.jp>

VacciCheck/ワクチチェックはスペクトラム ラボ ジャパン株式会社の登録商標です。

